

教	育	実	践	に	よ	る
地	域	活	性	化	事	業
の	取	り	組	み		NO.19



2021. 3

※ 本事業は和歌山大学教育学部 へき地・複式教育実習、小規模校活性化支援事業を引き継ぎ、拡大発展させたものです。

県内小規模学校における 現地滞在型教育実習・体験活動

和歌山大学教育学部の教育実践による地域活性化支援事業は、全国でも非常にまれな、地域内での滞在型（主にホームステイ型）教育実習・体験活動です。県内各地の小規模校にご協力いただき、学生の教育実践力向上に加えて、地域連携の重要性（地域における学校の役割、学校と地域が連携して子どもを育てる意義等）を学ぶことを目的としています。また、学生の学びに加え、運動会や文化祭支援など、学生が学校教育を通じて地域に貢献する活動もおこなっています。



大自然・伝統と特色ある地域性・個に応じた一人ひとりを大切にした教育。そして人々の温かさ。
教育の原点・日本の原風景の中で体験し学ぶことの数々は、「人間力」の大きな育成に結びつきます。

地域の教育課題を捉え、地域に根ざし 地域に貢献する教員をめざす

和歌山大学教育学部では、2002年より「へき地・複式教育実習」を実施してきました。この成果を踏まえ、さらに拡充深化させていくために、2011年より「小規模校体験活動」（2014年より「小規模校活性化支援事業」に名称変更）、2016年より「小規模校実習」を実施しています。

いずれも大学からの移動に1時間半～4時間を要する県内でも遠方の小規模校で行われていますが、どの学校でも和歌山大学の学生を快く受け入れていただいています。



「へき地・複式教育実習」、「小規模校活性化支援事業」、「小規模校実習」の期間・対象・目的・活動内容等は以下の通りです。 ※2020年度の「へき地・複式教育実習」、「小規模校活性化支援事業」は、新型コロナウイルス感染症流行のためやむを得ず中止。

	へき地・複式教育実習 (2002年から継続中)	小規模校活性化支援事業 (2011年より実施 2014年名称変更)	小規模校実習 (2016年度より 紀南地域にて実施)
主な期間	2週間 (間の土日に地域体験学習)	3日～1週間程度	2週間 (間の土日に地域体験学習)
実施時期	2月中旬・下旬 (10月より事前指導 3月に事後指導 実施期間は統一)	9月を中心に年中 (学校からの要望による)	11月上～中旬
対 象	主免実習を終えた教育学部 教員養成課程3回生(希望者)	学部・学年問わず	教職大学院 授業実践力向上コース コース必修科目「小規模校支援」 と関連づけて実施
宿泊形態	ホームステイが基本	ホームステイが基本	合宿形態が基本(青少年の家等)
単位認定	2単位	教育ボランティアとして1単位	2単位
募集人数	13名	26名	8名
2019年度 参加者数	12名	36名	6名
実施主体	教育学部教育実習委員会 教職実践支援室	地域教育支援室	教職大学院
主な目的	<ul style="list-style-type: none"> 複式授業、もしくは少人数学級での指導の工夫を学ぶ、実習生授業の実施。 学校の地域連携の方策、地域と連携した学習活動やカリキュラムの把握。 学校周辺地域の体験学習等。 	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校の体験活動。 運動会等の学校行事、学習活動全般に関する支援。学校の各種業務支援。 学生の特技を活かした出前授業等の実施。特技をもった学生による学校・地域貢献的活動。 	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、学部の「へき地・複式教育実習」の目的を踏まえる。 小規模校及びその地域の抱える教育課題と特性の把握。 実習生授業の実施及びその評価、振り返り等によって小規模校ならではの特色ある授業を実践する力量の形成。

